

# 今の時代に合った “参加したくなる” “福岡らしい”

## 地域コミュニティの在り方とは

福岡アジア都市研究所 市民まちづくり研究部員

地域コミュニティグループ

有馬友美、佐々木恵美、關本歩実佳

今の時代に合った参加したくなる・福岡らしい地域コミュニティの在り方を探るため、文献調査により社会動向、福岡市調査により現状の取り組みを把握した。その上で、福岡市内で魅力ある活動を展開している地域コミュニティの担い手として、自治協議会 3 つと大学、企業にインタビュー調査を行った。その結果、「キープレイヤーの存在」「ICT 活用」「企業・NPO 等他の団体との連携」「SNS 等による効果的な情報発信」という共通項が明らかとなった。

### 1. 研究の背景 ～研究部員の思い～

地域コミュニティの希薄化は、現代社会が直面する重要な課題といえる。地域コミュニティグループのメンバー3 人が研究にあたって抱いていた思いはさまざま。大学 2 年生は進学に伴い一人暮らしを始めて、「同じ地域に住む人との交流が一切なくなってしまった」と不安を感じていた。未就学児のいる母親は「隣人の顔も知らない。なんか怖いから挨拶しない…本当にこれでいいの？」と疑問が膨らんでいた。高校・大学生のいる母親は「子育てがひと段落し、地域とのつながり方を改めて考えたい。災害があったら、どうしよう…」とモヤモヤしていた。3 人に共通するのは、地域コミュニティに関心がありつつも参加できていないという現実と、このままでいいのかという漠然とした不安だった。そこで、地域コミュニティの現状を知り、地域とのつながりについて考えることにした。

### 2. 目的

安心して住み続けるために、地域コミュニティが重要であることは多くの人認識しているものの、希薄化はどんどん進んでいる。旧態依然としたコミュニティの在り方が問われているのではないか。そこで本研究では、魅力あるコミュニティの実態を調べることで、今の時代に合った“参加したくなる”“福岡らしい”コミュニティの在り方を探る。

研究にあたって、魅力的なコミュニティの要素について仮説を立てた。持続可能なコミュニティであるためには、若い世代や転入世帯の積極的な参加が必要で、「ICT の活用」「企業・NPO 等他の団体との連携」「SNS 等による効果的な情報発信」の 3 要素が欠かせないと考えた。

### 3. 地域コミュニティとは ～調査対象・手法～

そもそも地域コミュニティとは何か。総務省の資料によると、「共通の生活地域の集団によるコミュニティ」であり、さらに文献を調べたところ、地域コミュニティにおいて中心的な存在は、自治会や町内会であると示されていた。そこで本研究の調査対象は、まず自治会(福岡市においては自治協議会)とし、さらに今の時代に合った新たな形として、企業と大学のコミュニティも調査した。調査手法は、文献調査と自治体調査により社会動向と自治体の取り組みを把握した上で、地域コミュニティの担い手にインタビューすることで実態を探ることとした。

#### 4. 調査 (1)文献調査・自治体調査

先行研究によると、地域コミュニティが抱える課題は、「担い手不足」と「加入率の低下」であることが明らかになっている。背景には、役員の高齢化・固定化・負担大、認知不足、魅力不足、女性の社会進出や高齢者の就業拡大といったライフスタイルの変容など、さまざまな要因が指摘されている。いずれの調査においても、今後、地域コミュニティが存続できるのか、危機感が示されている。

では、私たちが住む福岡はどうか。福岡市の人口は約 160 万人で、そこに 2,300 を超える自治会、152 の自治協議会があり、地域の夏まつりや通学路の見守り、防犯灯の設置などを担っている。自治協議会は 15 ほどの自治会や子ども会、老人クラブ連合会など各種組織から成り、福岡市では校区ごとに組織されている。

平成 26(2014)年と令和 4(2022)年の市のアンケート調査を比較分析すると、「役員のなり手がいない」「活動の参加者が少ない」というネガティブ回答の割合が上がり、一方で「地域活動は大事」「地域活動に参加した」などのポジティブ回答が下がっていた。残念ながら、福岡市にも担い手不足と参加者不足という課題があると分かった。

次に、福岡市の地域支援施策を調べると 80 以上の事業が存在することが分かり、その中でも仮説につながる 3 つの事業に着目した。まず ICT 活用として、地域活動に参加するとポイントがたまるスマホアプリの「ふくおかポイント」を開発し、令和 6(2024)年度から一部校区でモデル実施している。企業等との連携を促進する「ふくおか共創パートナー企業」制度には、地域のまちづくりに協力する団体として、315 団体が登録している(令和 7(2025)年 3 月 1 日時点)。また、SNS 等による情報発信としては、福岡市の自治会・町内会、自治協議会を紹介するウェブサイト「ふくコミ」を令和 5(2023)年に開設していた。本研究では、これらに積極的なコミュニティを選定し、実態調査を進めた。

#### 4. 調査 (2)地域コミュニティ調査

本研究では、4 校区の 5 コミュニティについてインタビューを行った。

照葉校区は、平成 17(2005)年に移住が始まった埋め立て地・アイランドシティに位置し、

人口約 6,000 人、若い世代が多い地域だ。照葉校区自治協議会では、新設した広報部が Instagram や Facebook などを用いて、地域の情報を積極的に発信。組織内のコミュニケーションには LINE、情報共有は Google Drive、会議にはリモートツールを活用し、組織運営をスムーズに行う工夫をしている。また、外国籍の住民も多いため、資源ごみの掲示物などを多言語化し、ピクトグラムも取り入れている。組織づくりで特徴的なのは、数年前に同協議会が発足してからほぼ 1 年で会長が交代し、部会の約 4 割が女性という点である。同協議会の東川会長は会社員として働きながら 1 年前に会長に就任して、スケジュール管理を徹底して隙間時間と有給を活用し、仕事と会長を両立している。時代に合わせて組織を柔軟に変え、より良い自治協議会の在り方を模索したいと話した。

美和台校区は、1960 年代後半に小高い丘に造成された戸建て中心のニュータウンで、人口約 1 万 5,000 人、高齢化率約 28% と福岡市全体の高齢化率 (22.3%・2023 年) よりも高い。月に 1 度、地域カフェ「えむぷらざ」を開いて食事を提供し、カラオケや健康麻雀などを企画。地域住民の趣味である鉄道模型「エヌゲージ」を展示すると評判になり、校区外から見に来る人もいる。また、夏祭りをやめる地域が増える中でも毎年「まつり美和台」を開催し、昨年は約 1 万人の来場者でにぎわった。同協議会の山下会長は営業職として勤務する傍ら、体育委員として地域に関わり、48 歳のとき、高齢だった前会長に「新しいシステムを作るために世代交代が必要」と数人で訴え、自ら会長に就任。基本的に何でも受け入れる姿勢で、学校や施設、NPO と連携したり、地域住民を巻き込んだりしながら、積極的に新しい取り組みにも挑戦している。一方で、人が集まる商店街などがなく、若者が参加しやすい場を作ることが課題と話した。

西新校区は、人口約 1 万 8,000 人、大学や高校がある文教地区で、商店街や商業施設が立地している。近年は高層の集合住宅が増え、昔からある住宅と新しい住宅が混在する地域となっている。西新校区自治協議会では、持続可能な組織づくりを目指して活動の運営要項を作り、地域の特性を生かして、商店街や商工会、学校などと連携を図りながら活動を展開している。また、福岡市の「ふくおかポイント」を効果的に活用し、今まで活動に参加していなかった学生や若い世代の参加を促すことに成功した。同協議会の元村会長は県職員として勤務しながら、ソフトボールの監督や体育委員として地域に携わり、3 年前に会長に就任。一人の負担が重くならないように役割分担すること、人の特性を生かして仕事を割り振ることを意識している。一方、近年増えてきた集合住宅の住民にも活動に参加してもらうことを目指したいと話した。

さらに、学校と企業によるコミュニティ調査として、同じ西新校区にある西南学院大学にインタビューを行った。経済学部の小出教授は、大学生を主体としたコミュニティの活性化を目指し、学生が地域に愛着を持てる活動を展開している。小出教授が顧問を務めるサークル「MATI TO MENY(まちとめに一)」では、イベントの企画・運営や SNS での情報発信を通じて、地域の活性化を図っている。また、「西南まちづくりラボ」では商店街の空き店舗に交流拠点を設けて、学生と子どもや大人が交流し、地域の活動にも参加。令和

2(2020)年度からは「まちづくり・ひとづくり実習」という授業を開講し、西新の歴史や現状についてチームで分析し、地域課題の解決策を考える実践的な授業も行っている。

千早校区は、中高層住宅や商業施設の立地が進み、校区内人口が平成17(2005)年から12年間で倍増し、現在は約1万3,000人が暮らしている。同校区に令和3(2021)年にオープンしたガーデンズ千早は、単にモノを売るだけでなく、体験を通じた地域の人との交流を重視する商業施設だ。敷地内にある「ちはや公園」では、朝から親子がくつろぎ、シニアが話し込み、夕方からは中高生や社員が勉強や仕事、ダンスをするなど、幅広い年代の人の居場所となっている。イベントなどを開催したければ、常駐の公園長に気軽に相談できて、地域に開かれた自由度の高い空間となっている。また、まちの暮らしをより楽しくより良くする取り組みを推進する「千早をよくする会」があり、住民とゴミ拾いをしたり、近隣大学の学生とイベントを行ったりと、校区内外の人を巻き込んだ企画を数多く行っている。

## 5. 分析

調査した4校区の地域特性を知るため、横軸を住宅地から商業地、縦軸を子どもが多いから高齢者が多いとして配置すると、大きく異なっていた。今回の調査は仮説の3要素を共通項とする5つのコミュニティをピックアップしており、いずれも活動と交流が活発であった。3要素を満たすコミュニティは魅力あるコミュニティと相関関係があると考えられる。

さらに5コミュニティの地域特性、特長、課題から類型化を試みると、全てのコミュニティに、活動の中心となる重要なキープレイヤーが存在することが分かった。そこで魅力的なコミュニティの要素は、3要素にキープレイヤーを加えた4つであると結論付けた。

## 6. 考察 ～参加したくなるコミュニティに必要なものとは～

魅力的なコミュニティの要素を、持続できるコミュニティという視点で見直すと、「ICT活用」は参加者の負担軽減、「企業・NPO等他の団体との連携」は活動の魅力化、「SNS等による効果的な情報発信」は活動の見える化に資するものであり、これらは持続性のあるコミュニティ運営に必要不可欠な手法・ツールと考えられる。調査を通して改めて感じることとは、核となるのは「キープレイヤーの存在」であり、その存在が最も重要であるということだ。

さらに、地域のキープレイヤーが育まれる環境には、組織・運営の安定をベースとした「地域の魅力」と、そこに集う人が作る「仲間の魅力」が欠かせないと分かった。魅力ある地域に人が集まり、仲間の魅力が生まれ、その交流と共創が地域を盛り上げ、地域の魅力となる。この好循環が生まれる地域でこそ、キープレイヤーが育まれると考える。

まとめとして、今の時代に合った「参加したくなる」地域コミュニティにまず大切なのは、キープレイヤーを育む環境があることで、その上で時代に合わせた手法を躊躇なく導入していけることが重要である。最後に、これまでの内容を踏まえ、参加したくなるコミ

ユニティに向けて具体的に使えるもの・できることをまとめた。ICT 活用としては、回覧板・掲示板の電子化、オンライン会議ツールの導入があり、SNS 等による情報発信は利用者の特性に合わせて使うことがポイントだ。ICT や SNS はなじみの薄い担い手もいるであろうが、活動の負担軽減や若者の参加促進には欠かせないと感じた。他の団体との連携においては、「一緒に何ができるか」という視点で他団体を巻き込みながら企画や提案することが考えられる。

また、もう一つのテーマである「福岡らしさ」としては、「福岡市 LINE 公式アカウント」の登録者数は市の人口を超える 191 万人にのぼり、福岡市民の多くが LINE を利用していると推測される。前述した「ふくおか共創パートナー企業」制度に 315 もの団体が登録していること、15 大学・9 短大・60 以上の専門学校があることも福岡市の特長であり、ここで提案した、できることの下地は整っているといえる。

私たちは福岡の地域コミュニティ活動がもっと活性化することを願いつつ、それぞれができることに取り組んでいきたい。

#### 参考文献等

総務省ホームページ [https://www.soumu.go.jp/main\\_content/000819371.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000819371.pdf) (最終アクセス日：2025 年 3 月 27 日)

福岡市ホームページ <https://www.city.fukuoka.lg.jp/lifeinformation/comm-volunteer-ngo/living-g08.html> (最終アクセス日：2025 年 3 月 27 日)

<https://www.city.fukuoka.lg.jp/shicho/kocho/opinion/siseianke-to/documents/r6gaiyou.pdf> (最終アクセス日：2025 年 3 月 27 日)

<https://www.city.fukuoka.lg.jp/minamiku/k-shinko/shisei/documents/siryuu.pdf> (最終アクセス日：2025 年 3 月 27 日)

[https://www.city.fukuoka.lg.jp/fukushi/kaigohoken/shisei/documents/04\\_dai2syuu.pdf](https://www.city.fukuoka.lg.jp/fukushi/kaigohoken/shisei/documents/04_dai2syuu.pdf) (最終アクセス日：2025 年 3 月 27 日)

[https://www.city.fukuoka.lg.jp/shimin/community/life/kakukunokoukude-tasyuu/documents/r1\\_hg29\\_teriha\\_book.pdf](https://www.city.fukuoka.lg.jp/shimin/community/life/kakukunokoukude-tasyuu/documents/r1_hg29_teriha_book.pdf) (最終アクセス日：2025 年 3 月 27 日)

[https://www.city.fukuoka.lg.jp/shimin/community/life/kakukunokoukude-tasyuu/documents/r1\\_hg9\\_miwadai\\_book.pdf](https://www.city.fukuoka.lg.jp/shimin/community/life/kakukunokoukude-tasyuu/documents/r1_hg9_miwadai_book.pdf) (最終アクセス日：2025 年 3 月 27 日)

[https://www.city.fukuoka.lg.jp/shimin/community/life/kakukunokoukude-tasyuu/documents/r1\\_s2\\_nishijin\\_book.pdf](https://www.city.fukuoka.lg.jp/shimin/community/life/kakukunokoukude-tasyuu/documents/r1_s2_nishijin_book.pdf) (最終アクセス日：2025 年 3 月 27 日)

[https://www.city.fukuoka.lg.jp/shimin/community/life/kakukunokoukude-tasyuu/documents/r1\\_hg4\\_chihaya\\_book.pdf](https://www.city.fukuoka.lg.jp/shimin/community/life/kakukunokoukude-tasyuu/documents/r1_hg4_chihaya_book.pdf) (最終アクセス日：2025 年 3 月 27 日)

福岡市：『自治会活動ハンドブックー第 2 次改訂版ー』2023

福岡市：『福岡市 公民館つなぎの手帳』2017

福岡市：福岡市共創による地域コミュニティ活性化条例, 2022